

健康 ぷらざ

うつ病？ 認知症？

— 高齢者にご用心 —

指導：国際医療福祉大学医療福祉学部 教授

上島 国利

企画：
日本医師会

No. 240

うつ病は高齢者にも多い

うつ病は思春期や働き盛りに多いのですが、高齢者でも目立ち、わが国では高齢者の10人に1人が何らかのうつ症状を持っていると言われています。体の機能が衰えてくる、退職して社会的役割を失う、子どもが独立して離れていく、同年代の人が亡くなる等々、多くの喪失体験がうつ状態に陥らせるのです。

高齢のうつ病患者さんは、日常のいろいろな動作がおっくうになったり、物事を思い出すのが遅くなったりして、一日中ボーッとしているように見えがちです。また、うつ病の高齢者には幻覚や妄想が起こりがちなため、家族や周囲の人たちは認知症と間違えることがしばしばあります。

認知症の初期には

一方、高齢者では認知症も増えてきます。認知症の初期には、うつ状態を伴うこともありますので注意しなくてはなりません。高齢者のうつ病では、気分の落ち込みを自覚するよりも、こまごまとした体の不調を訴えることが多いのが特徴ですが、うつ病か老化現象か分からずに家族が見守っているうちに、認知症が進んでしまう場合もあります。



うつ病？ 認知症？

おかしいと思ったら相談を

うつ病と認知症では治療の方法が違うので、おかしいと思ったら、うつ病か、認知症か、両方の合併なのかを見極めてもらうことが第一です。治療によってうつ病はずっと良くなりますし、うつ病と認知症が合併している場合は、うつ病の治療をすると認知症状も改善することが普通です。

まず周囲の方が患者さんの様子をきちんと観察したうえで、医師と相談してください。

